



～自立活動って、何だろう?～

学習：「スイッチを押して、おもちゃを動かそう」

今回は、Bさんの自立活動の学習の様子を紹介します。Bさんは教師と一緒に時間をかけて自分の目の前にある物、触れた物を使って遊ぶことで、段々と興味をもち、自分から物で遊ぶことのできる生徒です。

この学習では、「にぎりスイッチ」を使って、光と音の出るおもちゃを動かしています。スイッチを握ることで、おもちゃが動くことに気付き、繰り返しスイッチを押して、遊びを楽しむことをねらいとしています。

スイッチは握った時に興味をもつことができるように、振動するものを選びました。また、おもちゃはBさんの好みを考えて、光って音を出しながら、動くものを選びました。

Bさんの自立活動の目標は、「スイッチを握るとおもちゃが動くことに気付き、くり返しスイッチを押して楽しもう」です。



<p>①</p> <p>スイッチ、触ってみる？</p>	<p>②</p> <p>スイッチがブルブルして、おもしろいな！</p>
<p>④</p> <p>スイッチでおもちゃを動かして、楽しんでいます！</p>	<p>③</p> <p>おもちゃも動き出した(*へへ*)</p>

この学習は、因果関係を理解することをねらいとしています。因果関係とはこうすると(原因)、こうなる(結果)という関係のことです。今回の学習では、スイッチを押すことで、おもちゃが動くことに気付くことが因果関係の理解となります。

Bさんは、教師と一緒にスイッチを握るうちに、握った時には自分の周りで音がしたり、光ったりすることに気付くことができました。スイッチを握るとおもちゃの方に視線を向け、おもちゃの音と光に注目する姿が見られるようになりました。今では、自分でスイッチを握り続けながら遊びを楽しむことができるようになってきています。

今後も、楽しむことのできるおもちゃをBさんと一緒に探しながら、学習を行っていきたいと思っています。

因果関係に気付きやすいおもちゃは、①バイブレーターなどの触れると振動するおもちゃ→②歌絵本などの音の出るおもちゃ→③ライトなどの光るおもちゃの順だそうです。

参考文献：「感覚と運動の高次化理論からみた発達支援の展開 子どもを見る眼・発達を整理する視点」